



まちづくり濃縮100%!
M-CAN Juice

NPO法人 M-CAN(三島コミュニティ・アクションネットワーク) ニュースレター「ミカンジュース」

M-CANの主張
CCRCという考え方



街かどデイハウス「日向(ひなた)」から
こえんひろばうんどうかい

コミュニティスペース「JJJ(ジジ)」
M-CANラジオ部 南紀白浜での活動
まえあし日記「平成25年度が始まりました」

Vol. 11

2013年6月発行

とれたての情報をギュッとしぼった
Fresh&Squeeze! 100%
ミカンジュース 



CCRCという考え方

2010年4月、政府は「地域包括ケア研究会報告書」を発表し、団塊の世代が75歳以上を迎える2025年を目標に、医療と介護とコミュニティの切れ目無い連携を目指すシステムづくりが提案された。茨木市においてもこの地域包括ケアシステム（以下包括ケア）の議論がいよいよ始まりだしている。認知症やひとり暮らし高齢者の増加など、多問題化する高齢者介護を考えたとき、私達、地域の側も知恵を出し合ってこのシステム創りを支えていかねばならない。

そこで一つ提案がある。「CCRC」という新しい高齢者の生活モデルの発想と考え方を導入してみてもどうだろうか。CCRCとは「Continuing Care Retirement Community」、直訳すると「継続的なケア付きリタイアメントコミュニティー」の略であるが、健康で自立した高齢者から、体の状態により医療ケアを必要とする高齢者まで、各人の状況に応じた幅広い対応を可能とする、施設を中心とした生活共同体のことをいう。高齢者は健康状況に関わらず最適な住環境を選択できる点で、大きな安心感を得られるメリットがあり、米国ではかなり広く普及しているらしい。しかし日本では適応する高齢者住宅の確保やファイナンスの概念が十分に整わずに、その概念すらまだ十分に確立されていない。私達の近所にある東芝跡地が、このCCRCとして近隣病院や地域大学と連携して取り組まれれば面白いし、スマートシティと合体した茨木型CCRCというのは唐突な提案なのだろうか。

そのような中において九州大学のホームページに、「日本型CCRC」という概念を見つけることができた。HPIによると日本型CCRCとは、「高齢者が年を経るにつれ変わっていくニーズに対して、継続して同じ場所で自分の意志が尊重された生活ができるように、複合施設を核として、他の自立型、支援型、介護型の高齢者住宅とネットワークを結び、地域包括ケアの機能も果たす一連のサービス」と定義され、「街ごとCCRC」という概念も示されていた。この「街ごとCCRC」という概

念は、以前から私達M-CANが主張してきた、「私達の住むまちを『特別養護老人ホーム』に見つらえて街づくりを考えよう」と提案してきた内容と一致する。ただ、この私達の「特養」提案は、元気な高齢者へのアプローチが弱く、他に変わる何か良いものが無いのかと考えていた時に、このCCRCという概念に出会えたのである。

米国のCCRCにおいてカギとなっているのは、単に介護の視点だけでない「生きがい」へのアプローチであり、居住する高齢者に様々なアクティビティが用意されている。それは、コミュニティ活動における「絆」感や、何かに夢中になったり感謝される達成感、いわゆる自己実現を図ることのできる「生きがいコミュニティ」としての機能であり、地域にある大学と連携したカレッジリンク型CCRCという形態も増えてきていると報告されている。私達のこれから考える「包括ケア」においては、この生きがいという視点と発想が必要なのではないだろうか。できればこの高齢者自身の「生きがい」を、地域におけるインフォーマルサービスとして創り上げる仕掛け作りがもっと議論されなければならないと感じている。そのためにも、昨年度一定の事業再構築がされたCSWの役割を見直す時期にあるのではないかと提案したい。

先の日本型CCRCの研究HPIには、「日本型CCRCを機能させる為には、必要不可欠な要件がある。それは高齢者一人ひとりに責任をとる主任介護者の存在である。そしてその主任介護者が定期的に高齢者とコミュニケーションをとり、情報を電子データで管理し、その情報に関係者がアクセスできることが必要である」と記載されているが、私達は高齢者一人ひとりの主任介護者の存在と併せて、街をプロデュースすることのできる演出家の存在が必要なのだとあえて主張したいし、そこにCSWの役割も見えてくる。それこそが日本型CCRC成功のカギであろう。それは地域福祉を隣保館(隣保事業)を柱として取り組んできた、M-CANならではの実践から見えてきた、大事な視点である。私達は、街をプロデュースするという機能のなかに本当の高齢者福祉が見えてくると信じて疑わない。

街かどデイハウス「日向(ひなた)」から



今年度初めの行事として恒例の弁天さんへのお花見に行きました。今年は桜の開花が全国的に一週間早く、当日は風は強いし、花はほとんど散ってしまっていて、ひなた始めて以来の最悪な状況のお花見となりました。

花がないことを考慮して、透明の大判のビニール傘を一本使って和紙で桜の花を大量に作って糸でつなぎ合わせ、枝垂れ桜を作って持って行きました・・・が、強風にあおられて傘の骨が折れてしまいました・・・。

利用者の方達はスタッフよりも元気で、「せっかく来たんだから外で桜を見ながら食事がしたい！」とおっしゃって、桜の木の下でお弁当を食べました。

地域の介護予防にいられている方達も今ではすっかりひなたの一員同様で、お花見等のひなたの行事には一緒に参加され、楽しんでいらっしゃいます。



五月には三島小学校6年生が修学旅行前に戦争体験の聞き取り学習にきました。

あと10年もすれば戦争を語る人がほとんどいなくなるだろうと思います。

地域の小学校にとっても、ひなたの利用者にとってもこのような交流はかけがえのない素晴らしいものだと思います。



「こえんひろば」だより

～こえんひろばうんどうかい～

5月26日(日)10時30分～12時、こえんひろばの運動会を、総持寺公園でひらきました。

この運動会も、今年で9回目になります。

今年もたくさんの参加者で、楽しく半日をすごすことができました。

きっと、初めての運動会だったパパ・ママも多かったのではないかな？

ほほえましい光景でしたよ。

これから子育てを楽しんでね！



【感想】

- * 初めて参加した時は、ふれあい遊びしかできなかった我が子も、もう4才で、競技がものたりないくらい成長しているのが感慨深いです。
- * うんどう会は幼稚園に入る前の貴重な経験でした。
- * 毎回、運動会は楽しみです。
- * 身体をうごかしてあそぶのは気分が良いですね。

== プログラム ==
かけっこ
おたまころかし
ふれあいあそび
リクエストかけっこ
など



月一回「パパの日」にも、毎回、パパさんたちも参加してくれていますよ

～「みかん屋」に引っ越してきました～

コミュニティ・スペース「jiji(ジジ)」



作品例：ストラップ&ネックレス



作品例：お皿



作品例：ペンダントトップ



作品例：メッセージボード

2012年、大阪府が実施した「OSAKA商店街空き店舗活用型雇用促進事業」で、総持寺商店街にあった空き店舗に5店舗が新規出店してきました。しかし、事業終了の1年後、2店舗を除き3店舗が事業継続できない状況となり、残念ながらあえなく撤退という結果となりました。この事業には多額な予算が使われており、また、それぞれの店舗スタッフは、1年ごとの契約社員という立場でした。商売に対する指導もほとんどなく、ほとんどのスタッフは素人。その中での店舗閉鎖。当たり前の結果です。また、これは「店舗閉鎖＝雇用継続もできない」という意味でもあり、なんのための事業なのだと正直、私は思っていました。

M-CANのラジオ部では、2012年11月17日に行いました「あるある三島福祉まつり」に出店いただき、そこで知り合った彼らをずっと追いつけていたのですが、ヴェネチアンガラスの体験・販売を行っていた「コミュニティ・スペースjiji(ジジ)」のスタッフのうち、特に「どうしても、ヴェネチアンガラスを作りたい！続けたい」という熱い想いを持った、2名のスタッフの活動を継続できるよう、みかん屋の2階スペースの一角を提供することにしました。

同時に商品開発のアドバイスや在庫管理、経理などの指導支援を行うとともに、販路の開拓面での協力もしてまいりました。今回、その甲斐もありまして、ラジオ部と親交の深い和歌山県白浜町にあるカフェ・雑貨屋2店舗にご協力いただき、試験的ではありますが、ヴェネチアンガラスの委託販売を2013年6月より開始できることとなりました。また、うち1店舗では、現地で体験教室も行うこととなりました。

まだまだ、未熟なスタッフ2名ではありますが、M-CANラジオ部として、彼らを応援していきたいと思っております。

近日中に、ヴェネチアンガラスの体験教室をM-CANで開く予定です。また、地域のみなさまの中で出張体験をご希望のグループや団体・子ども会などの方々、お気軽にお問い合わせください。

今後も露出度をどんどん上げていきますので、どうぞ、みなさまもコミュニティ・スペース「jiji」をご支援・ご指導賜りますよう、よろしく願いいたします。…と同時に、インターネットラジオ「M-CAN Juice」も同様に、地域のみなさまに、かわいがっていただければと思います。

ヴェネチアンガラスとは？

発祥の地は、イタリアのムラーノ島。
ガラスに鉱物を混ぜることで生まれる、他のガラスにはない煌びやかな発色が特徴です。
現地のガラス職人によって伝統的な製法で一つ一つ手作りされるヴェネチアンガラスは、ひとつとして同じものはなく、板状のガラスでは微妙な色合いの違いや、ミルフィオリに至っては1000を超える数の模様が存在します。

フュージングとは？

よく、「ガラスフュージングって何？」・・・と質問されるのですが『簡単に言ってしまうと『ガラスとガラスを熱して溶かし合わせる』ことです。



jijiの手作り体験教室では、このフュージングという技法を使ってオリジナルアクセサリー・小物の手作りを体験していただけます。

好きな色の板ガラスをベースにして、その上にミルフィオリという花の模様が描かれたガラスを散りばめて乗せたものを電気炉で溶かし合わせます。（※電気炉での加熱はスタッフが行います。）
焼き上がったものに、好きなパーツを組み合わせてお届けします。

是非、ガラスならではの透明感のあるオリジナルアクセサリー・小物づくりを体験してくださいませ。

申し込み方法、費用、日程などの詳細につきましては、近日みかん屋にてパンフレットを置きますので、是非お手にとってご覧くださいませ。



M-CANラジオ部 南紀白浜での活動



M-CAN ラジオ部 貞岡 実

M-CANラジオ部では、2011年より和歌山県西牟婁郡白浜町でのさまざまな活動に参加してきました。

私がM-CANを知ったのが2010年8月。当時からお付き合いのある、白浜町社会福祉協議会から「M-CAN(みかん屋)の視察をしてきてもらえませんか?」と頼まれたことがきっかけでした。

これをきっかけに、当時M-CANにいた室田氏(現首都大学東京准教授)と出会い、私は2011年2月よりM-CANでインターネットラジオを開始することとなりました。

その年の7月には、M-CANラジオ部は、白浜町社協や町役場、地元住民のご協力のもと、2泊3日の「第1回南紀白浜サマーキャンプ」を開始。続けて2012年7月には「第2回南紀白浜サマーキャンプ」を実施。白浜町の住民参加型の福祉活動や地域活性化活動を学ばせていただきました。

今年は、9月下旬に「第3回白浜サマーキャンプ」を開催する予定で、首都大学東京に行かれた室田氏も学生を連れて参加してくれるとのこと。いつも、とてもヘビーなスケジュールで充実した3日間となっていますが、白浜町の方々も私も今からとても楽しみにしています。



【第1回白浜サマーキャンプ】
社協主催で富田地区活性化視察(1)



【第1回白浜サマーキャンプ】
社協主催で富田地区活性化視察(2)



【第2回白浜サマーキャンプ】
インターネットラジオ「M-CAN Juice」収録



白浜町災害ボランティアセンター
設置運営訓練にも参加

最近では、M-CANラジオ部は6月2日(日)に行われた「白浜トライアスロン大会(試走会)」のボランティアスタッフとして参加し、前日からの設営作業と当日は「白良浜エイドステーション」の運営を担当しました。

このトライアスロン大会は、和歌山県トライアスロン協会・地元住民団体の社団法人 ヤロウヤプランニング・白浜町で構成された実行委員会で開催されましたが、企画・提案は、熱意のある地元住民団体からでした。「白浜を活性化させるには、どうしたらいいか？」と本気で考え実行する。そういった住民がいるからこそ、街が少しずつ魅力的になっていく実践例を実際に参加しながら学ばせていただいています。

また、今年より白浜町立谷地区で畑体験もさせていただいています。汗をかきかき、土地の開墾から畑を耕し、畝(うね)を作り、作物を植える。町中ではなかなかできない体験をさせていただいています。

こういった実践的な交流や体験の中から「コミュニティとは何か？」や「人のつながりやすさ」、「ちょっとした心遣いから生まれる心地よいコミュニティ」を肌で感じ、学ばせていただいています。



【白浜トライアスロン大会】設営



【白浜トライアスロン大会】
バイクスタート模様



白浜町立谷地区での畑作業(1)



白浜町立谷地区での畑作業(2)

また、今年4月からM-CANで活動しているヴェネチアンガラスの体験・販売の「jiji」も6月から白浜町内にあるカフェ2店舗でヴェネチアンガラスのアクセサリなどの委託販売が開始されます。

また、白浜町で年数回、ヴェネチアンガラス作り体験の開催を予定しています。これも地元の方々のご協力で実現したものです。こういった、温かい交流の中、今後も白浜町の取り組みに私個人だけでなくM-CANラジオ部として関わり続けたいと強く思っています。



白浜・虚空で作業をするjijiの三人

最後に、残念ながら、まだ茨木(M-CAN)でその成果を生かすことはできていませんが、白浜には真剣に地元の未来を考え、実行しているグループがあります。また、それに寄り添う地元社協の姿もあります。時には行政を動かし、多くの住民を動かし、いろいろな活動を行っているグループや社協に私個人、関わらせていただいております。今後も関わり続けたいと思っています。そして、いいタイミングでM-CANの活動に生かしていけたらと思っています。

一南紀白浜のご紹介一

白浜町は、人口は約21,000名(茨木市は、約277,000名)の街ですが、面積は約200平方キロ(茨木市は、約77平方キロ)と広大な土地と海・山・川にわたる豊かな自然環境に恵まれ、また、みなさんご存じのとおり南紀白浜温泉・白良浜・円月島・千畳敷・三段壁・アドベンチャーワールドなどを持った観光都市です。

しかし、若者は高校を卒業すれば、就職先もなく、通える大学もないために、多くは県外に就学・就職へ出てしまい、いったん県外へ出てしまうと地元へ戻ってくることもないのが現状で最近ではUターンならぬIターン(都市部から白浜へ移住してくる就労世代)が少し出てきましたが、まだまだその数は少なく都市部以上に高齢化が進んでいます。

都市部に住む私たちとは、また違った問題を地方では持っています。しかし、地方の問題は、いずれ私たちの住む、茨木市でも起こるかも知れません。そういう観点から見れば、地方は、未来の都市部を表しているのかも知れません。



New

まえあし日記



平成25年度が始まりました。25年度もCSW配置事業の委託を茨木市から受け、青色吐息ながら、もう一年、地域の身近な相談窓口としてがんばる決意をしたまえあしです。

M-CANの担当地域は三島・庄栄・太田小学校区です。それぞれの地域で民生委員さんを中心とした地域のみなさんと行政や関係機関と一緒に協力して地域の課題を解決する健康福祉セーフティネット(いきいきネット)が始まっています。昨年度はなかなか解決できない精神のケースや虐待などしんどいことが多かったように思います。なかなか解決できないで地域に申し訳ないなあ。と思うこともありました。でも、この地域のいいところは、どんなことでも皆で一緒になって聞いて、考えてくれる「ちょっと聞いてもらっていい？大変やねん。しんどいわ。」とお互いに言い合える関係が地域にあることだと思います。



昨年度、初めて自治会で地域福祉懇談会をしました。地域福祉懇談会で行政が直接、住民に話をしてくれることで相談をしやすい関係ができました。地域福祉懇談会で、最近、夫の物忘れが気になるけれど、わざわざ、市役所まで相談に行くほど困ってはいないけど、ちょっと気になっている。ということを地域福祉懇談会で市役所の人に相談することができて早期に病院に受診するきっかけができました。この相談された方は、たぶん、「市役所の人」という安心感があって相談されたのだと思います。「消防署の方から来ました。」という言葉で消火器を買うのと一緒に、「茨木市から来ました。」とか「茨木市から委託されている相談員です。」と言うと市民の安心感が違います。



CSWは行政・専門機関と地域で困っている人をつなげる「地域のつなぎ役」です。委託費が、今年度から元の委託費に戻りましたが、委託している茨木市も今まで通りの協力体制でお願いします。CSW一人では地域のセーフティネット(安全の網)はできないので、民生委員さんや福祉委員さんを始めとする地域の人達、行政・専門機関がみんなでネット(網)の役割となり協力していく年にしたいと思う今日この頃です。



編集後記



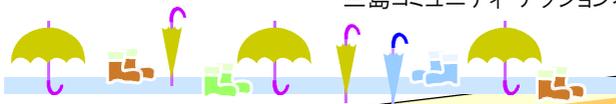
「もうヒトハナ咲かそ！」・映画「人生いろどり」の中で、吉行和子さんがつぶやくシーンだ。葉っぱを売って年商2億円、高齢化比率が50%を超え、町の面積の8割が山林という徳島県上勝町。この四国一小さな町で始まったシニアビジネスが「いろどり」。料理のアクセントとしての「つまもの」を販売するため、おばあちゃん達はPCを駆使し、全国の市場情報を収集して自らマーケティングを行い、全国に葉っぱを出荷する。

この事業は、度々メディアで取り上げられているから知っている人も多いだろう。M-CANでも、7年ほど前に視察に行き勉強をさせてもらったので、親しみを持って映画を見させてもらった。

高齢者が高齢者を支える社会を創るというスローガンのもと、茨木市も高齢者事業の再構築をするらしい。しかしそれは単に高齢者施設の問題だけに矮小化されてはいけない。誰も経験したことのない超高齢化社会において、我々自身が「人生をどう生きるべきか」ということを考えることができる提案を示せるかが本当の試金石になる。

「もうヒトハナ咲かそ！」高齢者がそう思える施策改革になるよう、関係者の知恵を集めて欲しい。

三島コミュニティ・アクションネットワーク 事務局



NPO法人M-CAN 入会のお誘い

三島コミュニティ・アクションネットワーク愛称M-CAN(ミカン)は、三島地域の助け合いの仕組みとして組織され、今では安威川東部エリアにおける福祉の拠点として位置づいています。街かどデイハウス「日向(ひなた)」や在宅親子のつどいの広場「こえんひろば」など、地域福祉にこだわった事業を展開し、「共生のまちづくり」など、住民一人一人が輝いて生活できる仕組みづくりを目指しています。M-CANでは、設立主旨を理解いただき、一緒に「まちづくり」「地域福祉」を創って行く方を募集しています。

- ①個人正会員(年額) 5,000円(一口)
- ②団体会員(年額) 10,000円(一口)
- ③賛助会員(年額) 3,000円(一口)

会員には情報誌「M-CAN Juice」をお届けします。また、M-CANが実施する様々な行事の案内や事業活用が行えます。個人・団体会員については、総会での「議決権」が保障され、M-CANの意思決定に参画することが出来ます。



M-CAN Juice Vol.11 2013年6月19日発行

発行/NPO法人 M-CAN (三島コミュニティ・アクションネットワーク)
〒567-0802 茨木市総持寺駅前町15番21号 [TEL] 072-628-1415
[HP] <http://m-can.net/> [E-mail] m-can@mail.goo.ne.jp